

アフガニスタンでのタリバンによる 権力奪取をどう見るか

——アフガニスタン女性革命協会（RAWA）と
イラク労働者共産党（WCPI）の見解——

2021年9月

目次

1. RAWA タリバンによる政権奪取に対する RAWA の応答
2. WCPI タリバンによるアフガニスタン支配の奪還について

編集・発行 民主主義的社会主义運動（MDS）理論政策委員会

*この『翻訳資料』は、MDSのホームページ（<http://www.mdsweb.jp/>）から無料でダウンロードすることができます。

【訳者まえがき】

2021年8月におけるアフガニスタンからの米軍および NATO 軍の撤退と軌を一にして、イスラム政治勢力であるタリバンがアフガニスタンへの統制権を奪還した。以下に訳出したのは、この事態をめぐるアフガニスタン女性革命協会（RAWA）とイラク労働者共産党（WCPI）の見解である。両者の見解は、犯罪集団であるタリバンの権力掌握は占領政策の破たんにともなう米国の戦略とお膳立てのもとで生じた事態であり、世界の民主主義勢力はアフガニスタンにおける市民の安全確保と女性および子どもの権利の保障のために自国の政府に働きかける必要があるという認識において一致している。

なお、RAWA の見解文の原題は RAWA Responds to the Taliban Takeover であり、WCPI の声明文の原題は About Taliban's Regaining Control Over Afghanistan である。

1. タリバンによる政権奪取に対する

RAWA（アフガニスタン女性革命協会）の応答

「女性の権利」や「民主主義」や「国造り」といった価値基準がアフガニスタンでの米国/NATO による活動の目的の一部をなしていたなどというのは、ジョークでしかない！

「アフガン女性のミッション（AWM）」〔米国における RAWA への支援団体〕は、現在の緊急時に必要な課題に対処するために RAWA と連絡を取ってきた。RAWA は、以下に掲載する AWM のソナリ・コルハトカー共同理事長との短いやり取りのなかで、彼女らが目撃している現場での情勢の展開を説明している。

ソナリ・コルハトカー：長年にわたって RAWA は米国の占領に反対して声を上げてきましたが、いまや占領が終わり、タリバンが戻ってきました。バイデン大統領はそもそも、アフガニスタンを現在よりも安全な状態に置くような仕方で米軍を撤退させることができたのでしょうか？ バイデンは、タリバンがこれほど素早く政権を奪わないようにするために、より多くのことを行ないえたのでしょうか？

RAWA：過去 20 年間、私たちの要求のひとつは米国/NATO による占領を終わらせることでした。彼らがイスラム原理主義者やテクノクラートらとともにアフガニスタンを去り、アフガニスタン民衆に自らの運命を決定させるのなら、それはさらにいっそう好ましいことです。しかし、この占領の結果は流血と破壊と大混乱だけでした。彼らは私たちの国を、最も腐敗した、安全のない、麻薬マフィアの跋扈する、とくに女性にとって危険な場所に変えてしまいました。

このような結果になることを、私たちは当初から予想することができました。米国によるアフガニスタン占領の最初の日である 2001 年 10 月 11 日に、RAWA は次のように宣言しました：

「米国の攻撃が続き、罪もない市民の犠牲者の数が増加すれば、タリバンに口実をあたえるだけでなく、中東地域、そして全世界においてさえ原理主義勢力に力をあたえる結果を招く」。

私たちがこの占領に反対した主な理由は、「対テロ戦争」というご立派なスローガンのもとで米国がテロリズムを支援したことにあります。北部同盟の略奪者と人殺しどもが 2002 年にふたたび権力の座に据えられたまさに最初の日から、ドーハにおける直近の[タリバンとの]いわゆる和平協議と取引と合意や、2020 - 2021 年における 5000 人のテロリストの刑務所からの釈放にいたるまでの事態の推移が示しているように、米軍と NATO が撤退したとしても良い結末にならないであろうことは明々白々でした。

侵攻や干渉のいかなる理論も安全な状態をもたらさずしないことを、ペンタゴン [米国防総省] は身をもって立証しています。帝国主義大国はすべて、自国の戦略的、政治的、経済的利害のために他の諸国に侵攻しますが、ウソと強力な企業メディアを通じて彼らの本当の動機と計略を隠そうとします。

「女性の権利」や「民主主義」や「国造り」といった価値基準がアフガニスタンでの米国/NATO による活動の目的の一部をなしていたなどというのは、ジョークでしかありません！ 米国がアフガニスタンにいたのは、この地域を不安定性とテロリズムのうちへ投げ込むことによって、競争相手の大国、とくに中国とロシアを包囲し、地域戦争を通じてそれら諸国の経済を弱体化させるためであったのです。しかしもちろん米国政府は、空港を支配して自国の外交官と職員を安全に避難させるために 48 時間以内に兵力をふたたび送らざるをえなくなるという大騒ぎを残した、あの悲惨で不名誉で気恥ずかしい脱出を望んではいませんでした。

私たちは、米国がアフガニスタンを去ったのは自らの弱点に起因するのであって、彼らが産み出した彼らの手下ども (タリバン) によって打ち負かされたからではないと確信しています。この撤退には、以下のような 2 つの顕著な理由があります。

主要な理由は、米国国内の多種多様な危機です。米国の体制の衰退の兆候は、新型コロナウイルスの大流行に対する貧弱な対応策、連邦議会議事堂に対する攻撃、そして過去の数年間における米国の市民による巨大な抗議行動のなかに見いだされます。為政者は米軍を撤退させて国内の差し迫った課題に集中せざるをえなかったのです。

2 つ目の理由は、アフガン戦争が並外れて高額な戦争であったことであり、その費用は何兆ドルにもなり、そのすべてが納税者の資金から取られたことにあります。このことが米国の財政をひどく傷つけ、アフガニスタンを去ることを余儀なくさせたのです。

戦争を商売にする政策の目的はアフガニスタンをより安全にすることでは決してないということを、この政策自身が証明しているものであり、そのことは、米軍が去ろうとしているいまの時期にはなおさら当てはまります。そのうえ彼らはまた、撤退が大混乱になることを知っていたのに、それでもなお撤退の道を進んでいきました。いまやアフガニスタンはタリバンが権力の座についているせいでふたたびスポットライトを浴びていますが、毎日何百人もの人びとが殺され、国土が破壊されるというのが過去 20 年間の状況でありましたし、そのことはメディアではほとんど報道されなかつただけなのです。

ソナリ・コルハトカー：タリバンの指導者は、イスラム法に適合するかぎり女性の権利を尊重すると言っています。西側のメディアのなかには、この点を肯定的に描き出しているものもあります。タリバンは同じことを 20 年前にも言ったのではありませんか？ 人権と女性の権利に対する彼らの態度に変化があると思いますか？

RAWA：企業メディアは、打ちのめされた人びとの傷にひたすら塩を塗ろうとしているのです。彼らは、野蛮なタリバンのうわべをよく見せようとするやり方を自ら恥じなければなりません。タリバンの広報担当者は、彼らの思想が 1996 年と今日のあいだで何ひとつ変わっていないと表明しました。そして彼らが女性の権利について語る際に用いるは、かつての暗黒支配の時期に使われていたのとまったく同じ言い回しです。すなわち、シャリア法を実行するという言い回しです。

タリバンは最近、アフガニスタンの全地区での恩赦を宣言しました。彼らのスローガンは「恩赦の喜びがもたらしてくれるものを、復讐はもたらすことができない」です。しかし現実には、彼らは毎日人びとを殺しています。まさに昨日、タリバンの白の旗ではなくアフガニスタンの三色旗を携えていたというだけで、或る少年がナンガルハルで射殺されました。タリバンはカンダハルで 4 人の元陸軍将校を処刑しました。彼らはまた、フェイスブックに反タリバンの投稿文を寄せたという理由でヘラート州の若いアフガン詩人であるメーラン・ポパールを拘束しましたが、彼の行方は家族にもわかりません。これらの事例は、タリバンの広報担当者たちの「上品」で洗練された言葉にもかかわらず、彼らの暴力行為における若干の

実例にすぎません。

私たちはしかし、広報担当者たちの主張はタリバンによって演じられているもろもろの見世物のひとつだろうし、彼らは自らの体制を整えるまでの時間稼ぎを引き延ばしているだけなのだと確信しています。事態は急速に進行していて、彼らは自らの政府機構を構築し、情報機関を創設し、美德普及・悪徳防止省を設立しようとしていて、同省は、髭の長さ、服装の規則、マハラム（男性の付添人であり、父親か兄弟か夫だけが付添人になれる）の同行を女性に義務づけるといった、人びとの日常生活の細部を支配することに責任を負います。タリバンは、自分たちは女性の権利に反対していないが、それはイスラム／シャリア法の枠内に収まらなければならないと主張しているのです。

イスラム／シャリア法はあいまいなものであり、イスラム教の政権によって彼ら自身の政治的意図と支配を利するようによくさまざまな仕方で解釈されます。さらに、タリバンは西側諸国が彼らを承認し、彼らに真剣に向き合ってくれることをも欲しているのであり、上記のような彼らの主張のすべては、彼ら自身の外見をとり繕う試みの一貫なのです。彼らはもしかしたら数カ月後に、「われわれは正義と民主主義を信じているから選挙を行なう」と言うかもしれません！ こうした見せかけの主張は彼らの本性を決して変えはしないでしょうし、彼らはなおもイスラム原理主義者でありつづけるでしょう。彼らはすなわち、女性嫌悪で非人間的で野蛮で反動的で反民主主義的で反進歩的なのです。一言で言えば、タリバンの精神構造は変わっていないし、決して変わらないでしょう！

ソナリ・コルハトカー：アフガニスタン軍と米軍に支援されたアフガニスタン政府は、なぜこれほど早く崩壊したのでしょうか？

RAWA：数多くある理由のなかでも主要なものとしては、以下の点が挙げられます：

1) あらゆることが、アフガニスタンをタリバンに譲り渡す取引にもとづいて実施されました。米国政府は、パキスタンやその他の地域の勢力と交渉をしながら、タリバンを主要な構成者とする政府を設立することで合意しました。こうして、結局は閉ざされた扉の背後でタリバンを権力の座につける用意がされていたので、[アフガニスタン国軍の] 兵士たちはアフガン民衆にとって利益のないことが明らかな戦争で命を落とす用意などでできていなかったのです。ザルメイ・ハリルザド¹は、タリバンをふたたび権力の座につかせるという裏切り行為をしたためにアフガン民衆からひどく憎まれています。

2) 大部分のアフガニスタン人は、アフガニスタンで進行している戦争はアフガニスタン人の戦争ではなく、この国の利益のための戦争でもなく、外国の大国が彼らの戦略的利害のために始めた戦争であり、アフガニスタン人はこの戦争の燃料にすぎないということをよく理解しています。大多数の若者が軍隊に入っているのは厳しい貧困と失業のためであり、したがって彼らは戦ううえでのいかなる動機も大義も持ち合わせていません。米国と西側諸国が 20 年間にわたり、アフガニスタンを消費国の地位にとどめ置こうとして産業の成長を妨害したという事実は、言及する価値があります。そうした状況が失業と貧困の波をつくり出したのであり、傀儡政権による兵士募集と、タリバンと、大麻生産の増大への道を開いてしまったのです。

3) アフガニスタン軍は 1 週間で敗北してしまうほど弱体ではなかったのですが、彼らは大統領官邸から、タリバンに反撃してはならず降伏しなければならないという命令を受け取っていました。大部分の州はタリバンに対して平和的に譲り渡されました。

4) ハミド・カルザイとアシュラフ・ガニの傀儡政権は、長年タリバンを「不満な兄弟たち」と呼んでいて、タリバンの最も冷酷な司令官や指導者の多くを刑務所から釈放しました。「敵」ではなく「兄弟」と呼ばれる勢力と戦えとアフガニスタン軍の兵士に求めたことは、タリバンをつけあがらせ、軍の士気を落としました。

5) アフガニスタン軍は前代未聞の腐敗に苦しんでいました。カブールに居座る多数の将軍たち（大部分は野蛮な北部同盟の元軍閥）は何百万ドルも横領し、前線で戦う兵士の食糧や賃金でさえも削減したのです。「幽霊兵士」は SIGAR²によって暴露された現象です。政府の高官は自分のポケットを満たすのに忙

1 ザルメイ・ハリルザド (Zalmay Khalilzad) は、アフガニスタン生まれの米国外交官。米国による占領後のアフガニスタンにおけるカルザイ政権の構築を後押しし、2018 年以降はトランプ政権のもとでタリバンとの「和平協議」と「和平合意」を主導した。

2 SIGAR は、米国政府の「アフガニスタン復興担当特別監察官」の略称。

しかったわけでした、彼らは何万人もの存在しない兵士の賃金と糧食費を自分自身の銀行口座に流し込んでいました。

6) アフガニスタン軍が厳しい戦闘でタリバンに包囲されても、彼らの救援要請はカブールによっても無視されました。何十人もの兵士が何週間も弾薬も食糧もないまま見捨てられたときにタリバンによって虐殺されるという事例は、数えきれないほどありました。そのため、アフガニスタン軍の死傷率は非常に高かったのです。世界経済フォーラム（2019年、ダボス）ではアシュラフ・ガニが、2014年以来アフガニスタンの45000人以上の保安要員が殺されたことを認めましたが、その一方で同じ時期に米国/NATOの要員のうちで殺害されたのは72人だけでした。

7) 腐敗、不正義、失業、安全の欠如、不確実性、不正行為、膨大な貧困、麻薬と密輸などを増大させる社会全体が、タリバンの復興の基盤を提供しました。

ソナリ・コルハトカー：米国人がまさにいま RAWA とアフガニスタンの民衆や女性を支援するうえでの最善の方法は何でしょうか？

RAWA：私たちはこの何年間もずっと、米国の自由を愛する人びとが私たちとともにいてくれることをとても幸運で喜ばしいことだと感じてきました。私たちに必要なのは、戦争を商売にする政府の政策に対して米国の市民が声をあげ抗議することであり、こうした野蛮な人たちに反対するアフガニスタン民衆の闘いの強化を支えることです。

抵抗するのが人間の本性であることを、歴史が証言しています。私たちには、「オキュパイ・ウォールストリート」や「黒人の命を軽んじるな」運動という米国の輝かしい闘いの実例があります。どんなにひどい抑圧も圧政も暴力も抵抗を止めることはできないことを、私たちは見てきました。女性は、自由がこれ以上奪われるのをはや甘受しません！ タリバンが首都に入った日のちょうど翌朝に、若い勇気ある女性のグループがカブールの壁に「タリバン打倒！」というスローガンを書きつけました。私たち女性はいまや政治意識をもっており、20年前には簡単に着ていたブルカを着用して暮らしたくはないのです。私たちは、安全を確保するための洗練されたやり方を見いだしながら闘いを継続していきます。

私たちは、非人間的な軍事帝国である米国はアフガニスタン民衆の敵であるだけでなく、世界の平和と安定に対する最大の脅威であると考えています。しかし、いまやその体制は衰退しつつあり、ホワイトハウスやペンタゴンや米国連邦議会の野蛮な戦争を商売にする連中に反対する闘いを強化することは、平和を愛するすべての進歩派と左翼、そして正義を愛するすべての個人とグループの義務となっています。腐敗した体制を公正で人間的な体制に取り換えれば、貧困で抑圧された数百万人もの米国民衆を解放するだけでなく、世界の隅々にまで永続的な影響をあたえるでしょう。

いま私たちが恐れているのは、1990年代末のタリバンによる血塗られた支配の時期のように、世界がアフガニスタンとアフガニスタン女性のことを忘れてしまうのではないかということです。ですから、米国の進歩的な民衆と団体はアフガニスタン女性の存在を忘れてはなりません。

私たちはより大きな声をあげ、抵抗を続け、政教分離の民主主義と女性の権利のために闘います。

2021年8月21日

2. タリバンによるアフガニスタン支配の奪還について

イラク労働者共産党

アフガニスタンを20年間占領したあげく、米国政府はアフガニスタンからの撤退を決定した。米国の撤退は、内戦、20世紀におけるソ連による占領、そして過去20年以上にわたる米国とその同盟諸国の占領によって破壊されたこの国の歴史で最も血塗られた時代を終わらせたのである。この撤退は、人類の歴史上最も野蛮な組織の手中にこの国の全体を投げ込んだ。さらに、過去の幾多の事例がそうであったよう

に今回の撤退が世界に対してまたもや明らかにしたのは、米国による戦争は「人権、自由、民主主義、そしてその国の富を人々が享受する機会」を実現するために遂行されているという米国の主張が、恥知らずな醜いウソにすぎないということである。

人びとを殺害し破壊をくり広げたいのに、タリバンは女学校を閉鎖し、何百万人もの少女たちから教育課程を修了する道を奪い、「マハラム」（すなわち男性の家族成員）の随行がなければ女性が家から外出することを禁止し、彼らによる支配の最初の日に、時代に著しく逆行する法律を早くも押しつけたのだった。貧窮し病んだ何百万人ものアフガニスタン人が、パキスタンやイランのような近隣諸国の国境に逃れたが、近隣諸国は入り口を閉ざすという対応をとったため、人びとは悲しむと同時に激怒した。アメリカ合衆国と NATO の同盟国は世界支配戦略を達成するために、最初は冷戦をともなう「対共産主義戦争」によって、そしてその後には「対テロ戦争」によって、アフガニスタンの社会の破壊と経済の衰退と政治的不安定の基盤を直に産み出したのだった。しかもこれが、テロリスト集団を強化することによって行なわれたのである。

タリバンとその運動が政治の舞台に復帰することによってアフガニスタンが今日たどり着いたのは、あらゆるレベルで衰弱させられた国の成立であり、人間らしい生活のあらゆる面での欠如である。これらは、グローバルなレベルでの優先事項と戦略を転換したために変化したアメリカ合衆国の政策の一部である。

米国によるアフガニスタンの占領は、この国の貧困を、腐敗を、イスラム主義テロリスト集団のもたらす苦難を、そして前世紀から続く安全と自由の欠如を深刻化させた。米国は今回、米軍を撤退させることによって、大混乱に新たな人道危機の出来事を付け加え、最も犯罪的なイスラム主義グループの復権を認めたのである。

ワシントンDCにいる支配階級の主張やその宣伝とは反対に、アフガニスタンからの米国の撤退計画は、占領が「目的を達成した」とか、テロリズムとアルカイダを一掃することに成功したとか、テロリズムを遠ざけた世界を実現するなどといった謳い文句とは何の関係もない。そのうえアフガニスタンからの米国の撤退は、ロシアと中国、とくに後者の優位性の拡大を阻止するという戦略に関係している。

その一方で、タリバンを政治権力に復帰させるなら、全世界でイスラム政治勢力とそのテロリズムを活気づかせるだろう。ISIS [「イスラム国」] が台頭して、シリアとイラクでその犯罪国家の樹立を宣言したケースがそうであったように、人類は、テロリズム、自由のはく奪、女性への抑圧、そして最も腐敗した反動的で非人間的な思想の広がり of 新たな一幕を目撃することになるだろう。

見識ある人びとは今日、真実を語りつつある。すなわち、テロリズムの根絶はアメリカ合衆国の優先事項ではなかったし、これからも優先事項にならないであろうが、テロリズムの大部分はむしろ何よりも米国によって作り出されたという真実をである。世界中へのテロリズムの蔓延は、米国の軍事占領によってか、あるいは米国の同盟者による血塗られたクーデターによって産み出されてきたし、産み出されつづけている。米国が足跡を残す世界のどの部分も結局は破壊に見舞われるのだということも、くり返し立証されている。

イラク労働者共産党 (WCPI) は、アフガニスタンにおける米国のすべての政策を糾弾する一方で、アフガニスタンの現状に対して占領軍としての米国の政治的・道義的責任を指摘する。WCPI は、アフガニスタンにおける人間としての自由と女性や子どもの権利とに対するタリバンの攻撃を後退させるうえで役に立つ現実的な政策の実施に着手するために、自由を求める勢力がその政府に圧力をかけることを呼びかける。

2021年8月15日